

防災スペシャリスト養成研修（有明の丘研修）の受講者拡大について

受講者拡大の必要性

- 令和元年度の応募状況から、参加希望者に対して、受講者数は限定的となっていることが分かった。そのため、今後は受講者の拡大を検討していく必要がある。
- 受講者の拡大に当たっては、受講者を受け入れるための空間が必要となる。有明会場の広さや空間状況（空間内に柱がある）などや、研修の質が低下しないよう配慮する必要がある。

対応方針（案）

- ① 定員を50名→70名に、受講者数の拡大を検討する。
 - 定員を現在の50名から70名に変更し、最大76名まで受け入れる。
 - 定員はコースコーディネーターの意見も踏まえ、コースごとに定員を変更することも可能とする。
 - 演習を担当する講師にあらかじめ受講者数の見込みを伝えるとともに、グループ発表の時間配分や発表のグループ数等、進め方を工夫いただけるよう依頼する。
- ② 特に希望者が多いコースの実施回数の増を検討する。
 - 特に希望者が多い「防災基礎」や「対策立案」等の実施回数の増を検討する。なお、研修内容は前年度第2期を基本とする。
 - 開催時期は出水期の前までを想定するが、様々な条件を考慮する。
＜主な検討事項＞ 出水期、会場の確保、コーディネーター・講師の都合 等
 - 講師依頼等の必要な手続きを速やかに行う。

なお、受講者拡大の検討の詳細は、次ページ以降にまとめる。

■ 令和元年度防災スペシャリスト養成研修の受講状況について

本年度実施した防災スペシャリスト養成研修の受講状況は下記の通り。

表 有明 1 期の受講状況

	定員	応募者※1	受講者※2	修了者
① 防災基礎(9/5-6)	50	61	56	56
② 災害への備え(9/10-11)	50	65	58	52
③ 警報避難(9/12-13)	50	63	51	48
④ 応急活動・資源管理(10/8-9)	50	63	49	46
⑤ 被災者支援(9/26-27)	50	64	50	45
⑥ 復旧・復興(9/24-25)	50	66	46	45
⑦ 指揮統制(10/17-18)	50	66	34	34
⑧ 対策立案(10/10-11)	50	64	34	31
⑨ 人材育成(10/1-2)	50	62	43	41
⑩ 総合監理(10/3-4)	50	61	50	49
合計	500	635	471	447

※1 応募者数とは、事前キャンセルも含む研修初日の受付までの人数（研修 2 日間欠席者を含む）

※2 受講者数とは、1 日のみの受講者も含む人数（研修 2 日間欠席者は除く）

表 有明 2 期の受講状況

	定員	応募者※1	受講者※2	修了者
① 防災基礎(1/16-17)	50	128	52	50
② 災害への備え(2/13-14)	50	111	59	59
③ 警報避難(2/17-18)	50	95	55	55
④ 応急活動・資源管理(2/19-20)	50	95	54	53
⑤ 被災者支援(2/6-7)	50	103	55	53
⑥ 復旧・復興(2/26-27)	50	58	38	36
⑦ 指揮統制(1/23-24)	50	104	57	56
⑧ 対策立案(1/21-22)	50	137	50	49
⑨ 人材育成(2/4-5)	50	65	47	46
⑩ 総合監理(1/30-31)	50	54	43	42
合計	500	950	510	499

※1 応募者数とは、事前キャンセルも含む研修初日の受付までの人数（研修 2 日間欠席者を含む）

※2 受講者数とは、1 日のみの受講者も含む人数（研修 2 日間欠席者は除く）

■ 募集状況にみられる研修参加への希望について

(1) 有明1期（先着順方式）における募集の状況

有明1期の応募では、申込数60名を上限とし、先着順で募集を行った。申込数が上限の60名に到達次第、手動で申込フォームの締切作業を行った。募集開始10分で申込者が250名超え、30分で6コースが満員、2時間で3コースが満員となるような状況だった。各コースの申込状況は下記の通り。

表 コース別応募者数

	応募者数(人)※	上限到達時間
① 防災基礎(1/16-17)	91	約10分
② 災害への備え(2/13-14)	59	約30分
③ 警報避難(2/17-18)	53	約2時間
④ 応急活動・資源管理(2/19-20)	63	約20分
⑤ 被災者支援(2/6-7)	52	約25分
⑥ 復旧・復興(2/26-27)	53	4日
⑦ 指揮統制(1/23-24)	64	約20分
⑧ 対策立案(1/21-22)	66	約20分
⑨ 人材育成(2/4-5)	55	約2時間
⑩ 総合監理(1/30-31)	57	約2時間
合計	613	—

※ 募集期間中、最も応募者数が多かった数字を記載

(2) 有明2期（抽選方式）における募集の状況

有明2期では、1期の状況を踏まえ、公平性の観点から抽選方式に変更した。全コース平均でも定員50名に対して約1.9倍ほどの申込があり、研修参加希望者が非常に多いことが伺える。各コースの募集状況は下記の通り。

表 コース別応募者数

	応募者数(人)	倍率※1	受講確定数※2※3
① 防災基礎(1/16-17)	128	2.6	66
② 災害への備え(2/13-14)	111	2.2	66
③ 警報避難(2/17-18)	95	1.9	66
④ 応急活動・資源管理(2/19-20)	95	1.9	66
⑤ 被災者支援(2/6-7)	103	2.1	66
⑥ 復旧・復興(2/26-27)	58	1.2	58
⑦ 指揮統制(1/23-24)	104	2.1	66
⑧ 対策立案(1/21-22)	137	2.7	66
⑨ 人材育成(2/4-5)	65	1.3	65
⑩ 総合監理(1/30-31)	54	1.1	54
合計	950	1.9	639

※1 応募者数/50人

※2 定員は各コース50人だが、キャンセルを見越して66人まで受付

※3 研修日までにキャンセルした人数を含む

■ 有明会場の空間配置の検討について

参加希望者に対して、受講者数は限定的となっており、受講者拡大を考えていく必要があることが分かった。拡大するに当たり、受講者を受け入れるための空間が必要になることから、現在の会場で受講者数を拡大した場合の空間配置を検討した。

(1) 従来までのパターン（64人）

令和元年度に実施した研修での空間配置は以下の通り。

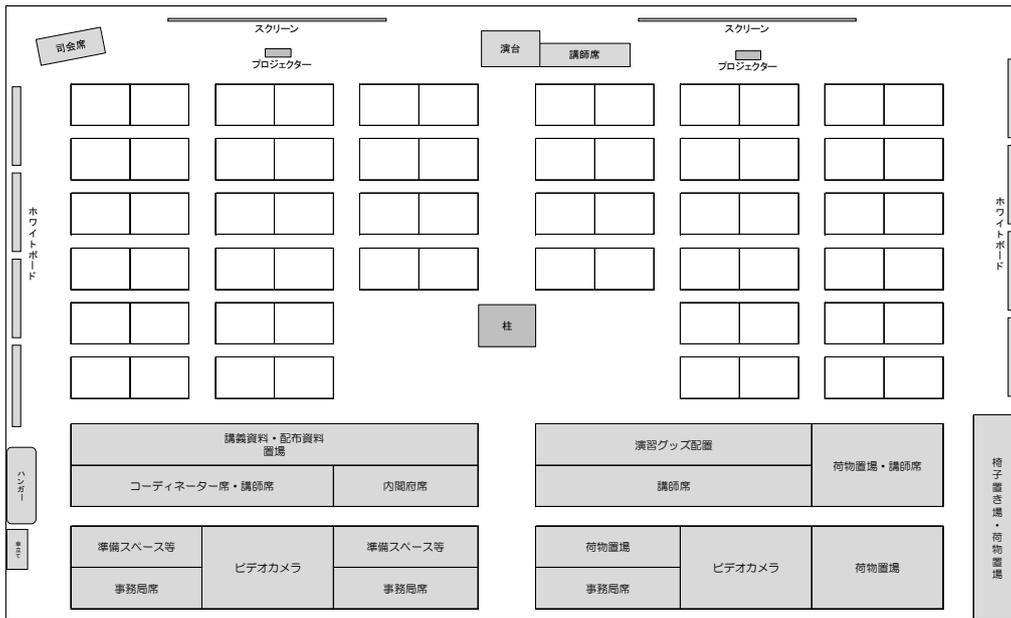


図 従来までのパターン（64人）

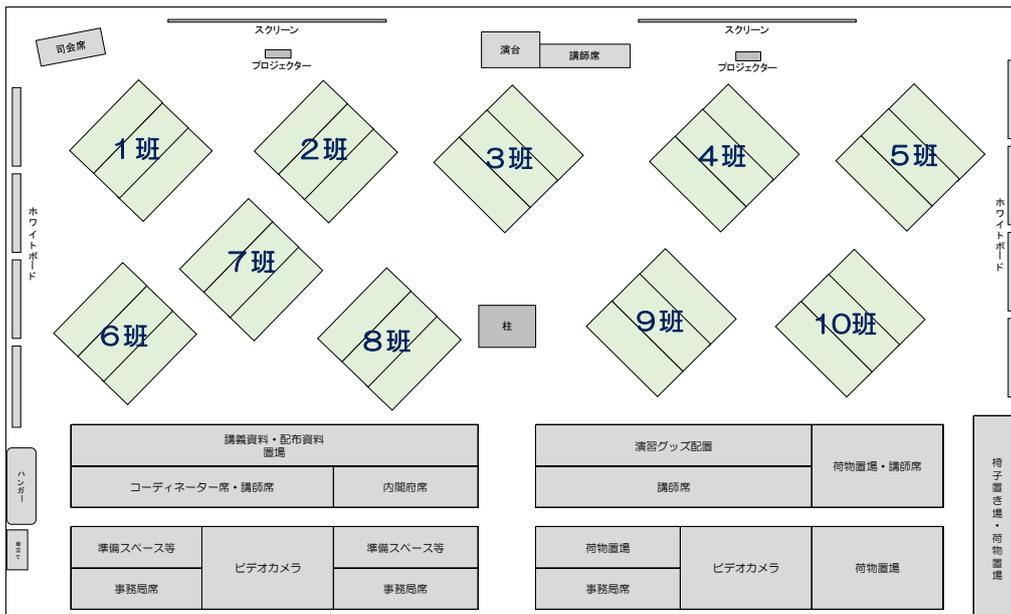


図 従来までのパターン（演習：10班）



図 参考：現在の有明会場の様子（座学：右後方から）



図 参考：現在の有明会場の様子（座学：左後方から）



図 参考：現在の有明会場の様子（演習：右から）



図 参考：現在の有明会場の様子（演習：右後方から）

(2) 受講者席を最大限確保したパターン (100人)

研修会場で最大限の受講者席を確保した場合を想定し、空間配置を検討した。講師・事務局スペース確保を最小にすれば、最大で100人の受入れが可能だと考えられるが、余剰スペースがほぼ無く、研修運営に影響が出る可能性がある。空間配置のイメージは下記の通り。

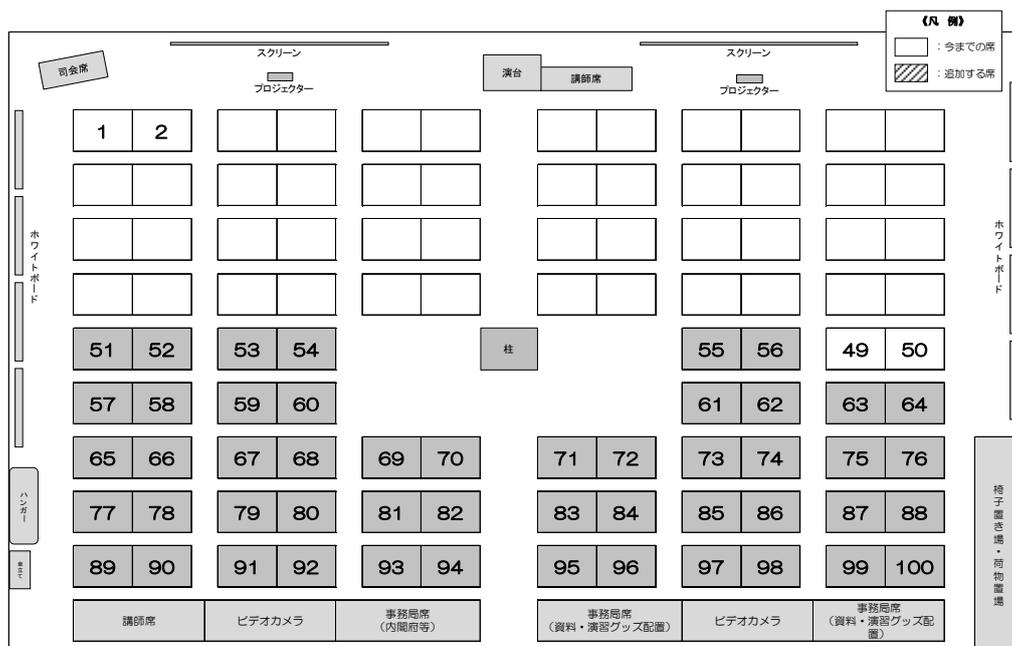


図 受講者席を最大限確保したパターン (座学 : 100人)

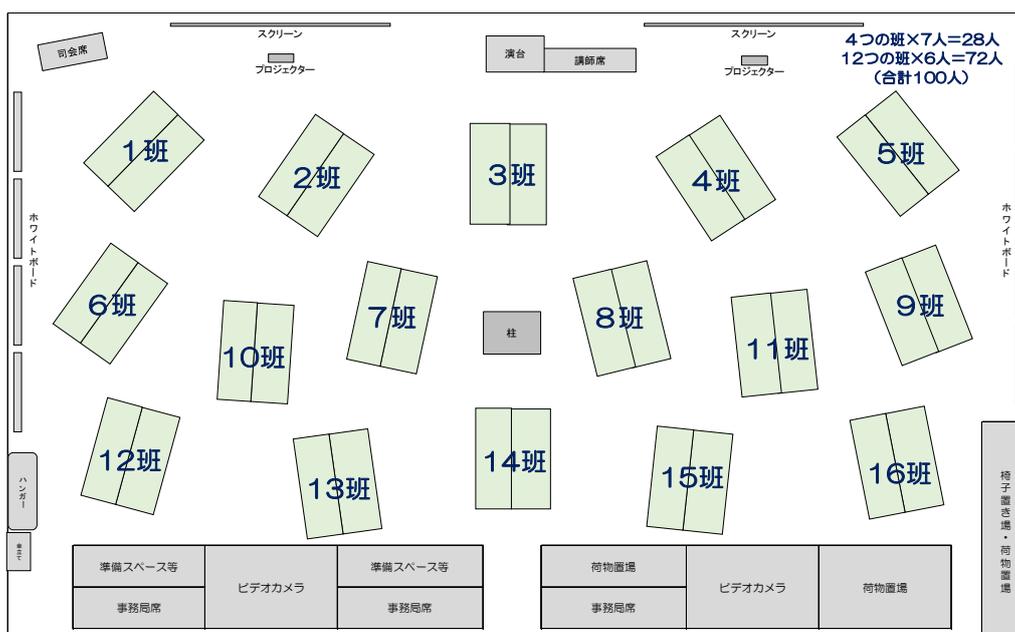


図 受講者席を最大限確保したパターン (演習 : 16班)

この空間配置で生じうる問題・課題点と対策案、対策実現の見込みは以下の通り。

表 生じうる問題・課題点と対策案

変更点	問題・課題点	対策案	対策実現の見込み
受講者席の増加	会場後方に通路を確保できないため、 <u>座席までの導線が確保しにくくなる</u> 。受講者への <u>緊急対応や質疑応答時のマイクランナーに影響</u> する。	余剰スペースの都合上、確保が困難	×
	会場後方に席を増やすため、 <u>スクリーンが見えにくい席</u> がある。	スクリーンの位置を見えやすい位置に調整する。	△
	会場中央の柱で <u>講師が見えにくい席</u> がある。	演台の位置を見えやすい位置に調整する。	△
	余剰スペースが無く、 <u>名刺交換等をするスペースが無い</u> 。	余剰スペースの都合上、確保が困難	×
	会場から借用している <u>机に不足が生じる</u> 。	予備を借用できないか調整する。※会場と調整	△
演習時の班数の増加	1班当たり6~7人程度の演習を実施する場合、最大16班になることから <u>スペースの確保が難しい</u> 。	演習時の1班の机を3組から2組に変更したが、余剰スペースの都合上、確保が困難	×
	<u>ホワイトボードの配置場所の確保が難しい</u> 。	余剰スペースの都合上、確保が困難	×
	会場から借用している <u>ホワイトボードに不足が生じる</u> 。	予備を借用できないか調整する。※会場と調整	△
	<u>演習のファシリテーション（進行・発表等）が難しくなる</u> 。	事前に演習担当講師に受講者数の見込みを伝える。	△
講師・事務局スペースの縮小	<u>コーディネーター・講師・来賓・見学者等の席が少ない</u> （最大で4名しか着席できない）	余剰スペースの都合上、確保が困難	×
	<u>研修運営に必要なスペース確保が難しくなる</u> 。 ・講義資料・配布資料置場 ・演習グッズ配置スペース	余剰スペースの都合上、確保が困難	×
	荷物置場が縮小されるため荷物を受講者席に持ち込む必要が生じ、 <u>受講者席のスペースがより圧迫される</u> 。	荷物置場を別室に確保する等の対応を検討する。 ※会場と調整	△

(3) 受講者席を増やしつつ研修運営に影響が出ないパターン (76名)

受講者席を最大限確保したパターン(100人)で生じうる問題・課題点をから、受講者席、講師・事務局スペースとも一定以上の余剰スペースを確保する必要があることが分かった。そのような点を踏まえ、従来よりも受講者席を増やしつつ、研修運営に影響が出ないパターンを検討した。空間配置のイメージは下記の通り。

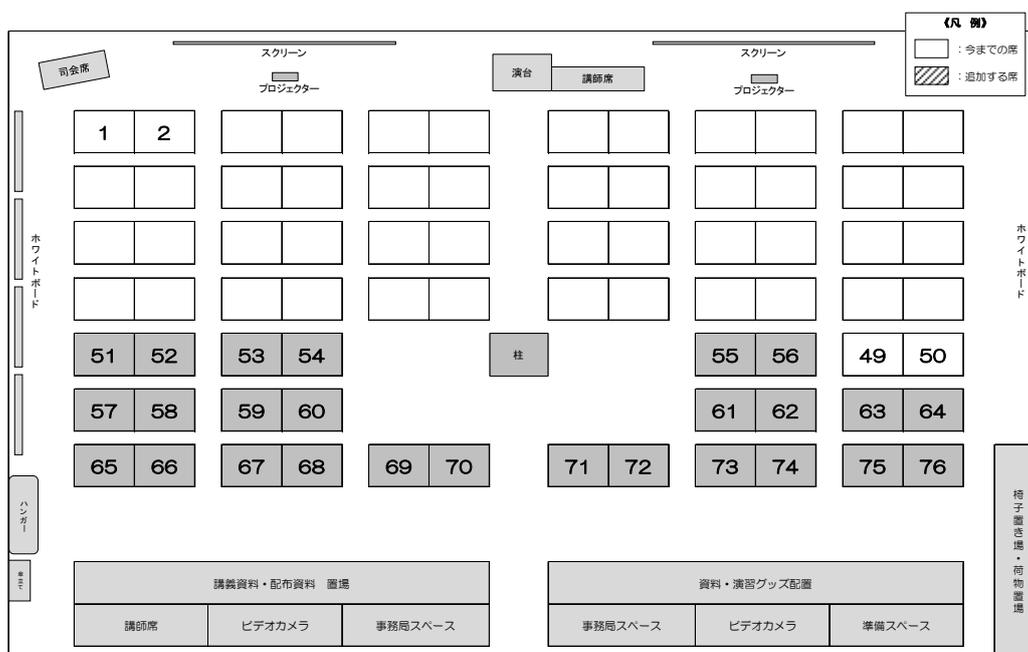


図 受講者席を増やしつつ研修運営に影響が出ないパターン (座学 : 76人)

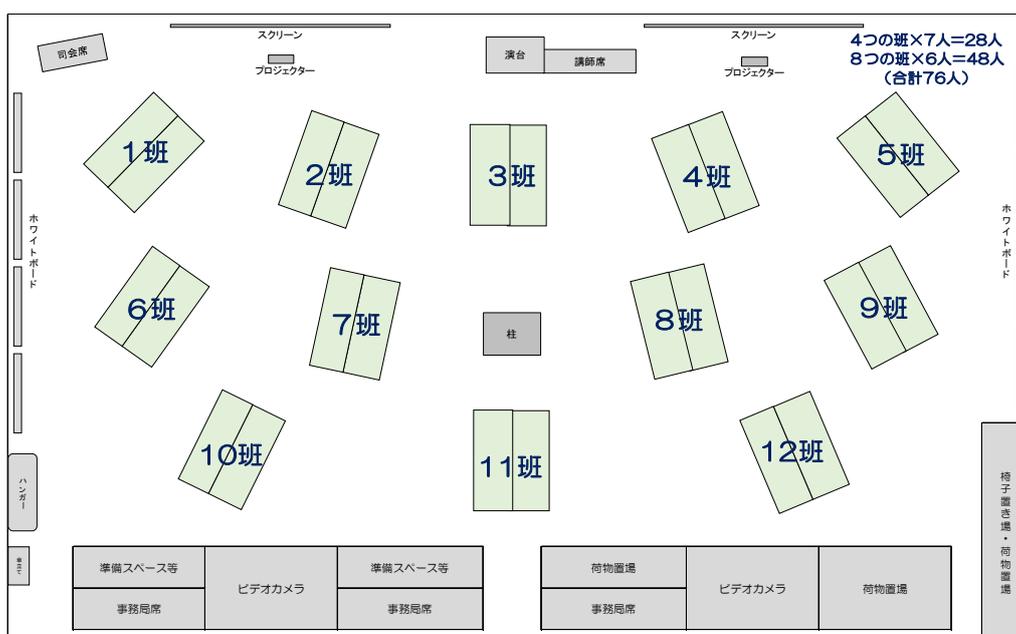


図 受講者席を増やしつつ研修運営に影響が出ないパターン (演習 : 12班)